

# 技術・家庭科学習指導案

日 時 平成18年11月15日(水) 5校時  
学 級 2年6組(男17名女18名 計35名)  
授業者 佐久間久子

1 題材名 食材にこだわる (家庭分野 A生活の自立と衣食住)

2 題材について

(1) 教材観

中学生は生涯の健康を支える身体をつくるためにもきわめて重要な時期である。しかし、今日の日本の食を取り巻く状況を見ると、いつでもどこでも簡単に食べられる食品が多く出回り、食欲に任せて食べる子どもも増えてきており、その影響は健康面だけでなく精神面にまで及んでいると言われている。また、輸入製品や工場製品としての食品の氾濫は、食としての本来の姿を失わせ、季節感や地域性もなくしてきてしまった。

このような食を巡る状況の中で、適切な食生活のあり方を学ばせ、身につけさせることは、生活の自立のためにはもちろん、生涯にわたり健康な生活を送るためにも重要なことである。特に加工食品に使用されている食品添加物については、摂取の仕方によっては発ガン性が指摘され、染色体への異常やアレルギー疾患との関わりも取りざたされている。健康に関わる様々な問題が取り上げられているにもかかわらず、それを意識して食品を選択しようとする傾向はあまり見られない。

そこで、自立した消費者の一人として、食品の安全性、加工食品の表示の見方、食品添加物の種類など、常に新しい知識・情報を知ることの必要性に気づかせたい。そして、自分の食生活に応じた適切な食品の選択と購入の方法を身につけ、有害な食品から身を守り、本当に豊かな食生活を求める態度を養いたい。

(2) 生徒観

生徒たちは、家庭科の中で「食」に関する学習への興味・関心が高く、授業に対しても意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、実際に食品を購入する際に注意していることを調査した結果、複数回答ではあったが「見た目」や「おいしさ」で食品を選ぶと答えた生徒がほとんどであり、「消費期限」や「値段」には注意するものの、どのような「材料」が使われているかを意識して選択すると答えた生徒は少ない。品質表示などの情報は何となく目にしている程度ということである。

そこで、生鮮食品と加工食品の学習を通して現在の食生活の問題点について考えさせることにより、自分たちの食生活のあり方を改善していこうという態度へつなげていきたい。

(3) 指導観

1年中たくさんの食品が出回り、簡単に入手でき生鮮食品の季節感や地域性が失われてきている。そのような中で生徒たちが自分で食品を選択する時は、色合いや形の良さで選んでいる。加工食品においてはコマーシャルの影響で選ぶこともある。内容量や賞味期限の表示は意識するが、鮮度や原材料をわかって選ぶことは少ない。そこで、何も考えずにただ何となく選び食べるのではなく、実際に食べている様々な食品の表示やマークを見ることでたくさんの食品添加物等が使用されていることに気づかせたい。また、色々な観点から比較させることで加工食品の必要性や問題点についても考えさせたい。

自分の健康を守るためには食品表示から得られる情報を活用することが大切であることに気づかせ、よりよい食品を選択していこうとする態度を養いたい。

3 題材の指導目標及び評価計画

(1) 題材の指導目標

- ・身近な食品に関心を持ち、用途に応じて適切に選択しようとしている。  
【生活や技術への関心・意欲・態度】
- ・食品の選択について学んだ知識と技術を活用して、適切な食品の選択方法を考えることができる。  
【生活を工夫し創造する能力】
- ・用途に応じて適切に生鮮食品や加工食品を選択できる。  
【生活の技能】
- ・身近な食品の品質を見分ける観点について理解できる。  
【生活や技術についての知識・理解】

(2) 指導計画と評価計画

指導内容	時数	関	創	技	知
食材にこだわる	5				
生鮮食品について知ろう	2				
加工食品について知ろう	1				
加工食品の選び方を考えよう	1(本時)				
安全でおいしい食品を選ぼう	1				

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・加工食品に関心を持ち、適切な食品を選択しようとしている。  
【生活や技術への関心・意欲・態度】
- ・加工食品の表示の見方を知り、安全性と問題点を理解している。  
【知識・理解】

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	具体的評価規準		C 努力を要する生徒への指導の手だて	評価場面(方法)
		A 十分満足できる	B 概ね満足できる		
生活や技術への関心・意欲・態度	加工食品について関心を持ち、適切な食品を選択しようとしている。	班の話し合いに積極的に参加し、自分の考えをまとめながら、いくつか観点を発表しようとしている。	班の話し合いに参加し、自分の考えを発表しようとしている。	班員の考えを聞かせ、それについてどう思うかを考えさせながら、話し合いに参加できるように支援する。	活動状況の観察 学習プリント
知識・理解	加工食品の表示の意味を読み取り、安全性と問題点を理解している。	加工食品の表示の意味を理解し、安全性や問題点についていくつか指摘できる。	加工食品の表示の意味を理解している。	発表やプリントを確認させ、加工食品の表示の意味を理解させる。	学習プリント

(3) 研究内容との関わり

ア 本時の基礎・基本

- ・加工食品の表示を読み取ることができる。【知識・理解】

イ 定着を図る指導の工夫

- ・加工食品を選ぶためのポイントを声に出して確認し、印象づける。(音読)
- ・導入でのジュースの比較を元に班ごとに他の食品でも繰り返し比較をすることで選ぶためのポイントを色々な視点から考えさせる。(反復)

ウ 動機付けの工夫

- ・見た目が同じ2つのジュースを比較させ、何が違うのかという疑問を投げかけ生徒の興味・関心を引きつけさせる。

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導及び支援の手だて 指導の留意点 支援	評価の視点 具体的評価規準 (評価方法)	研究内容との 関わり
導入 10分	1 無果汁のジュースと果汁入りのジュースを飲み比べて、どちらのジュースを購入したいか考える。	2つのジュースを班に配布し見た目と味からどちらの食品を選ぶか考えさせる。		動機付けの工夫 【興味・関心】
	2 それぞれのジュースの原材料を知る。	無果汁ジュースの材料を見せ、オレヅを使用しなくてもオレヅジュースらしい色や香りを作ることができることを知らせ、他の食品にも色々な食品添加物が含まれていたことを思い出させる。		
	3 学習課題を確認する。			
加工食品を選ぶためにはどんなことに気をつけたらよいだろうか				
展	4 班ごとに食品を比較し、どちらを購入したいか色々な視点から考える。	2つの食品の色、外観、価格、消費期限、原材料について比較させ、食品添加物の量によって違いがあることに気づかせ、どちらの食品を選ぶのが目安にさせる。 どこに注目したらよいか視点を与える。	【関心・意欲・態度】 A 話し合いに積極的に参加し、自分の考えをまとめながら観点を発表しようとしている。 B 話し合いに参加し、自分の考えを発表しようとしている。 (授業観察)	反復ドリル
	5 班ごとにどちらを購入したいかとその理由を発表する。	理由を記入させ、黒板に貼らせる。各班の発表が終わったら関わりの深い物をまとめ、購入のポイントを整理する。各班で共通して出ている購入		

<p>開</p> <p>35分</p>	<p>6 加工食品を選ぶためには、どんなことに気が付いたらよいかを考える。</p>	<p>理由をあげさせ、ポイントに気づかせる。</p> <p>表示には色々な情報が盛り込まれている。その情報に対して知識が無ければ自分の体を守ることができないので、自分で選択していくことが消費者として大切なことを実感させたい。</p> <p>加工食品を選ぶためのポイントを声に出して確認し、印象づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表示をよく見て選ぶ</li> <li>・添加物の少ないもの</li> <li>・情報を活用すること</li> </ul>	<p>【知識・理解】</p> <p>A 加工食品の表示の意味を理解し、安全性や問題点についていくつか指摘できる。</p> <p>B 加工食品の表示の意味を理解している。 (プリント)</p>	<p>音読</p>
<p>終</p> <p>未</p> <p>5分</p>	<p>7 本時の感想と自己評価をまとめる</p> <p>8 次時の確認</p>	<p>実際に加工食品を購入する際に、どんなことに注意していきたいかを自分なりの言葉で発表させたい。</p>		